

# さざなみ



## 滋賀医科大学附属図書館報

No.37/38

## 目 次

1995年7月

「花 衣」 .....	看護学科教授 竹尾 恵子.....	2
CD-ROM/Medlineの学内LAN接続について .....	図書課運用係.....	4
附属図書館の時間外「特別利用」について .....	図書課運用係.....	6
シリーズ「本との出会い」(3) 私は読書が嫌いである .....	眼科学講座教授 可児 一孝.....	7
行事報告.....		8
学内LAN活用に関する講演会		
平成7年度新入生オリエンテーション		
学内LAN経由のCD-ROM/Medline利用講習会		
附属図書館の活動.....		10
本学関係者寄贈図書 .....		12

# 「花 衣」

看護学科 教授 竹尾 恵子

瀬田のキャンパスで生活するようになって、早いもので2年が経ちました。緑の豊かな高台から琵琶湖を展望すると自然の佇まいに心が静まり、都会では考えられないような安らかな気持ちになります。

学問をするには、このような環境が望ましいと思う一方で、看護学のように人間と其の対応を全面に出して考えを進めなければならない場合、其れで良いのだろうかという気持ちも時に心をよぎります。

確かに、雑音に妨げられず、新しい考え方の筋道を見出し、組み立てていくのは何とも楽しいことですし、其れが出来る時間と場所が必要な事は言を待ちません。この静かなキャンパスはそのような場所として、大変良いところだと思えます。

話は飛びますが、この春先、ひどい風邪を引いて、一人で寝込む羽目になりました。高熱と食欲不振で、ただ、ただ寝てばかりの数日を過ごしたわけです。

鶯の音が響き、鳶が空をゆっくり舞っているのが窓越しに見え、勿論琵琶湖も遠望出来るのですが、先にお話しした静かな環境もこのときばかりはひどく心細く感じられたものです。

流感程度のもので自分が病気になるてみますと、日頃の自分の思考などは、あまりものの役には立たないように感じられます。とにもかくにも目の前にある自分の大学の病院を受診し、元気に働いているスタッフの方々とお会いしてみ、自分の属する看護という仕事の実践的な側面を今一度、見直す機会となったわけです。

実践的な看護には長い歴史がありますが、この実践を支える看護学の構造を生み出すには苦しい試行錯誤がありました。今でも看護学を担う研究・教育者達の肩には其の任は掛かっています。このように考えますと、看護はまさに実践を離れてはあり得ません。しかし、実践活動を冷静に眺め、看護学の在りようを考え、新しい健康とサービスに関するパラダイムを生み出す不断の努力も不可欠です。

多くの知識や経験を整理し、筋道を立て、新しいアイデアを生みだそうとするには、静かでまとまった時間が当然必要です。忙しい毎日の中で、そうした時間と場所を見出すのは、なかなか難しい事ですが、図書館がそんな時のために、駆け込み寺のような役割をとってくれることは大変有り難いことです。

最近本学の図書館も夜間の利用時間延長が行われ、多くの研究者がこうした面での場所と時間のサービスを手に入れることが出来たことは嬉しいことです。

さて、図書館の入り口にはゲートが出来て、カード一枚で自動的に身分を判別し、入館をオーケーしてくれます。人手もいらず、合理化とサービスが一挙に手に入った訳ですから、文句など言えた義理ではないのですが、あの“太い通せん棒パイプ”を見ると「おまえは誰だ」と野太い声が聞こえてくるようで少々気後れがするのは、時代に遅れた私だけでしょうか。然しそんなことを言って、せっかくの努力とサービスにケチをつけているわけではないのです。慣れてしまえば何のことはないのでしょうか。

図書館の中には沢山の知識と情報が詰まっています。どの一冊をとっても其処に著者達のエネルギーが込められており、それがこちらに取り付いて来そうです。また、情報の量はあまりにも膨大で、途方に暮れる思いです。情報の奔流に押し流され自分の足場が何処にあるのかを見失いそうになることもしばしばです。

看護に関する情報についてみますと、本学の図書館はこれから整備していかなければならないと言えます。何しろ看護学科は誕生したばかりですからそれはやむを得ませんが、大いに努力せねばなりません。

これからの図書館の在り様は単に蔵書を沢山揃えて、閲覧に供するだけでなくコンピュータを駆使した情報ネットワークを整備し、遠隔の地からたちまち情報を取り寄せられるところにあるわけです。ある図書関係の会合で、図書館の将来を話し合う機会がありましたが、このような方向で進むべきか、やはり“本を読む場”としての方向を堅持すべきかで意見が分かれた事がありました。確かにあふれるばかりの情報を次々と抄読し、時代に遅れず、学問の潮流に乗っていくことも大切ですが、一方では落ちついて、自分の考えに思いを凝らす時間も極めて大切な事といえます。然し、時代の方向はやはり書物を揃えるというよりは、情報ネットワークを整備して、情報の交換が出来る方向に向かうようにも思えます。

看護関係の情報はいくつかの施設には既に沢山揃っており、今や広い地域に看護の大学が沢山出来つつあることを考えれば、情報ネットワークを是非、整備して頂きたいものです。又、このネット・ワークには、臨床でナース達が容易に利用できるような工夫が欲しいところです。病棟の端末から看護関係の文献に簡単にアクセス出来るようになれば研究と臨床の距離は一段と短縮され、更に強い連携が望めそうに思えるのですが如何でしょう。

教育者稼業をしていますとついつい堅苦しい話ばかりになり、読まれる方々に苦痛を強いているのではないかと心配です。雨の中の紫陽花の色の変化を楽しみながら、来し方行く末に思いを馳せ、これからをどう過ごそうか思案してみるこの頃です。

## 「花衣 脱ぐやまつわる ひもいろいろ」

杉田 久女

# CD-ROM/Medlineの学内LAN接続について

図書課運用係

## 1. 学内LAN接続によるCD-ROM館内LANシステムの利用開始

本学のLAN環境の整備に伴い、学内LAN(以下「SUMSING」という)を經由して附属図書館のCD-ROM館内LANシステムに接続し、MEDLINEの検索ができるようCD-ROM館内LANシステムの機器等を追加導入し、下記のとおり、サービスを追加しました。

サービス開始：平成7年4月24日

サービス時間：24時間

(但し、システム定期保守時間  
(月曜日：9時～11時)を除く)

同時利用者数：3

利用エリア：SUMSING域内

パスワード：接続後パスワード入力

(パスワードは年1回以上変更  
予定)

本サービスの提供を受けるためにはTCP/IPでSUMSINGに接続できるMacintoshもしくはWindowsマシンが必要となりますが、SUMSINGへの接続申請については学内LAN推進室(内線2098)にお問い合わせください。

※ ※ ※ ※ ※

## 2. MEDLINEとは

MEDLINEというのはアメリカ国立医学図書館(NLM)が作成している生物医学文献のデータベースです。図書館の1階閲覧室窓側書架に置いてあるIndex Medicusという部厚い索引誌(月刊)に対応しています。

年間累積版をCumulated Index Medicusと

いいます。附属図書館はこのIndex Medicus(Cumulated Index Medicus)を第1巻(1960)から所蔵していて、2階の集密書架に1960年-1983年、1階には1984年-1995年、御覧になるとわかりますが、両方合わせると随分大量で、累積版でも1年単位ですから、例えば、ある著者の5年間の発表論文を探すとなるとかなりの時間と手間を覚悟しなければなりませんでした。

CD-ROMの場合は1966-1995年分が12枚のCDにおさまっていますし、年代指定をすることにより著者名検索は一度で済んでしまいます。Medlineによる文献検索が普及したのはこの数年のことなのですが、現在では図書館で働く人間でさえIndex Medicusに時間と手間を費やしていたことを忘れてしまいかねないと思う程、CD-ROM検索は当たり前のことであり、必然のこととなっています。

※ ※ ※ ※ ※

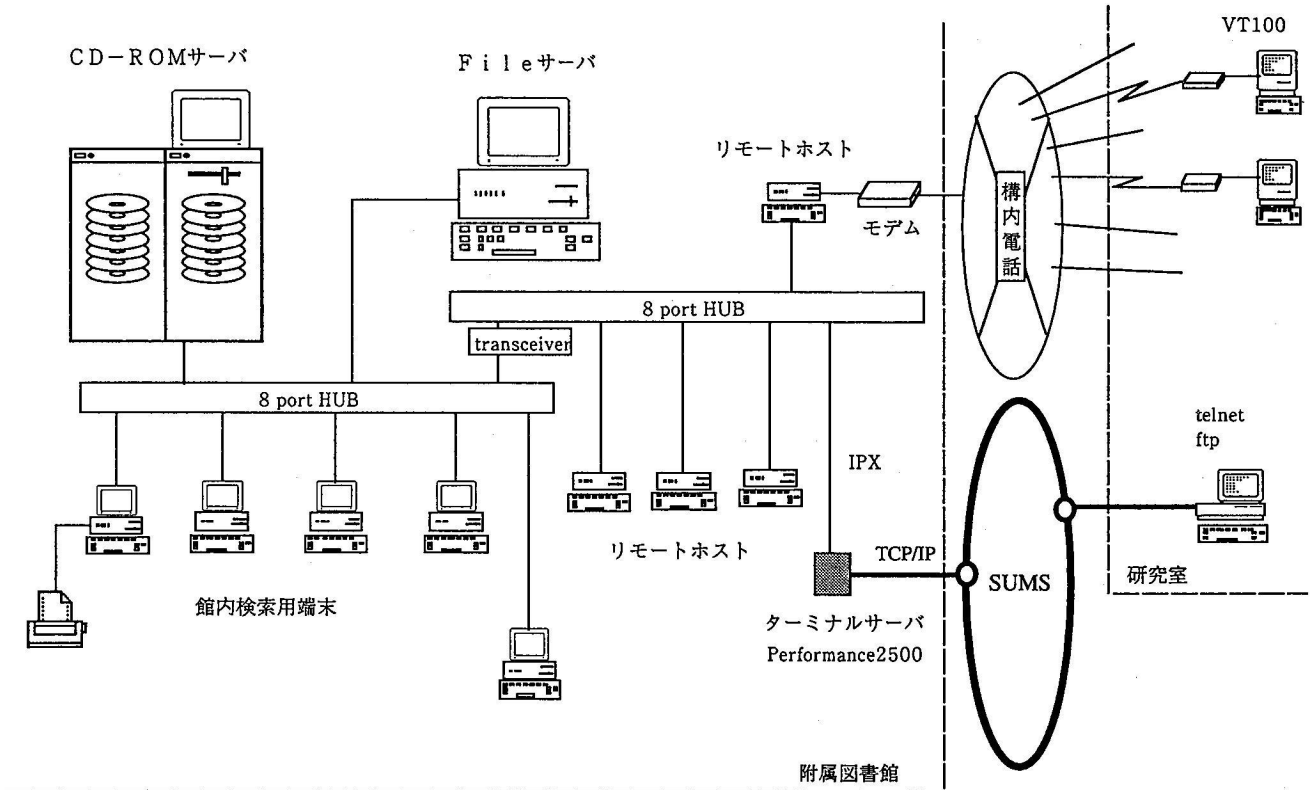
## 3. 利用手順・操作

これまで、附属図書館では、平成5年2月にはCD-ROM館内LANシステムを導入し、それまで同時に一人しか利用できなかったCD-ROM MEDLINEの同時複数利用や学内電話回線を介して研究室からの接続・利用できるサービスを提供していました。「さざなみ」No.34を参照ください。

今回のSUMSINGからの利用は学内電話回線接続とかなり似通った利用手順となりますが、操作については、画面に表示された特殊キー(ex. Help=PF1, Show=PF4, PgUp, PgDn, Ctrl, など)はESCキー-と他のキー-との組み合わせを使ったりする特殊なキー操作が若干異なったりもします。



滋賀医科大学附属図書館CD-ROM館内LANシステム概念図



詳しくは講習会で配付・説明しました操作マニュアル等に記述してありますので、利用にあたってはご参照ください。

接続と比べて約3.5倍のアクセス数がカウントされています。  
どうぞご利用ください。

※ ※ ※ ※ ※

#### 4. 利便性、利用の拡大

今回のサービス追加提供にあたって、これまで、土曜日17:00から月曜日9:00までシステムを休止していましたが、休止は定期保守時間（月曜日9:00-11:00）のみとし、利用時間を拡大しました。

また、学内電話回線接続での利用と比べて、ダウンロード文献の転送時間が大幅に短縮されています。

接続試験も含めた件数ですが、学内電話回線

# 附属図書館の時間外「特別利用」について

図書課運用係

平成5年度に「図書館入退館事務機械化システム」が導入され、平成6年5月9日から7月31日まで、閉館後、身分証明証をカードリーダーに読み取らせることにより扉の電子錠が解錠され、入館が可能になるという「無人開館（仮称）試行サービス」を、教官、技官、医員、大学院生の方々を対象に開始しました。（「さざなみ」No.36を参照ください。）

その後、平成6年8月からは利用対象者に研究生を加えて試行を継続いたしておりました。

この間1階閲覧スペースの照明スイッチの集中化、利用者の安全確認に役立てるためのモニタカメラの設置を行い、平成7年4月からは通常の開館時間（月一金 9:00-20:00、土曜日13:00-17:00）以外のすべての時間において、「特別利用」として運用開始しました。

さらに、平成7年7月3日（月）からは学部学生、および、学内研究従事者で「附属図書館利用証」の発行を受けた方も利用対象者に加えました。

時間外の利用範囲は

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) CD-ROM Medline（プリンタ付きの1台のみ）

医中誌CD-ROMやCurrent Contents on Diskette

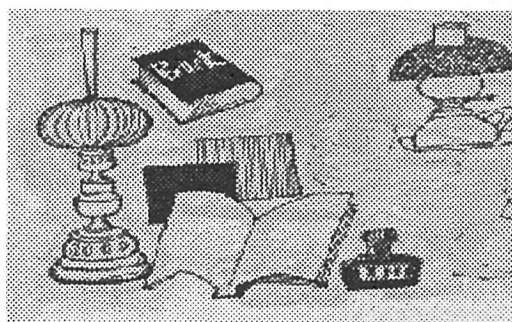
OPAC（午前0時まで）

各々の端末利用

となっています。

資料の貸出、学外への文献複写の申込みなどは、これまで通り通常の開館時間内にご利用ください。

なお、防火安全対策上、館内はブラウジングコーナーも含めて全域禁煙とさせていただいておりますのでご協力お願いいたします。



## シリーズ「本との出会い」(3)

## 私は読書が嫌いである

眼科学講座  
教授 可 児 一 孝

昭和20年、終戦の年に私は小学校、正確には国民学校に入学した。私は当時の満州に住んでいたが、学校は終戦とともに何者かに爆破されてしまい、それ以後收容所を転々としていた。もちろん勉強はしない。翌年の冬、1ヶ月かかって朝鮮半島を貨物列車と徒歩で縦断して引き揚げてきたが、リュックサック一つ持っただけで、本などは全く持って帰ることはできなかった。

昭和21年の3月、父の郷里の津山市の小学校に入った。父が教わった先生が健在で「私が教えてみましょう」といわれ、2学年に編入させてもらった。学校に行くと国語教科書の配給があった。教科書といっても、新聞紙大の藁半紙が2、3枚である。現在の藁半紙とは違って薄く、ざらざらしており、極端に紙質の悪い代物であった。小さな字でびっしり書いてあるが、ひらがなと漢字で全く読めない。えらいことになった。どうしよう。これが私の本との出会いであった。

私達の頃は1年生でまずカタカナを習い、2年生でひらがなを習うことになっていた。半年以上の空白でカタカナもほとんど忘れていた。その日から特訓が始まった。カタカナを思い出すこと、ひらがなを覚えること、漢字を覚えること。「かぐや姫が月を眺めて泣いている」という文章があり、「眺める」という字が難しく、どうにも覚えられなかった。

こんな訳で私は本を読むことが嫌いになった。この本は記念に大切に保存していたが、今回の震災で失ってしまった。なにかほっとした感じもしている。

1970年の頃である。視野の研究に取りかかっていた。Dubois-Poulsenという人のle champ visuelという本があり、大変良いことが書いて

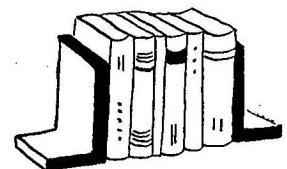
あるとのことである。そのころ大学紛争で実験がほとんどできなくなっていた。大先輩のY先生がこの機会にフランス語を習いに行こうということで私も参加させてもらった。2年ほど通った。Y先生は流暢なフランス語を話すようになったが、私は物にならなかった。余談であるが、習い物をするときは、自分より下の人と一緒にすべきである。上級の人には話す機会などすべての面で多く習うことになる。現在も私の本棚に、表紙は色あせ、中は新品のままのle champ visuelが眠っている。

そんなことで、私は横文字の本が嫌いである。

実験を行うときあまり文献を調べすぎるとうまく行かないことがある。論文はその研究が完全無欠であるかのように書かれている。以前はその実験の欠陥や問題点を書いたり、よく分からない点を指摘した論文もあったが、最近ではそれでは査読が通らなくなった。私は、ああでもない、こうでもないというような論文が好きだが。そんなことをいってはおられない。

論文を感心しながら読むと、すべて研究し尽くされ、自分の考えが実につまらないことのように思えてくる。やっぱりだめかと研究を放棄したくなるが、やってみると論文に書かれていたことは嘘で、新しい発見があることも希ではない。どんな研究でもよく調べてみれば同じようなことを考えていた先人があるものである。逆に、先人もそれほど偉いわけではなく、たいはいはどこかに誤りがあるものである。定説になっていることの中にも間違いは多い。文献を検索しすぎて研究ができないのも困るし、文献を調べずに過去の業績と同じことをやっても仕方がない。

私は文献を読むときは、査読をするつもりで読むように医局員に薦めている。私自身は読書が嫌いである。



## 学内LAN活用に関する講演会

附属図書館では学内LANの活用を目的として、千葉大学から2名の講師を招聘し次のとおり講演会を開催しました。

日 時 平成7年2月6日(月)  
15:00~17:00  
場 所 管理棟2階中会議室  
演 題 インターネットと情報提供サービス—千葉大学附属図書館におけるシステムの構築  
講 師 桧垣 泰彦  
(千葉大学工学部助手)  
有岡 圭子  
(千葉大学附属図書館情報管理課  
情報管理係長)

桧垣助手はUNIX-WSを用いた千葉大学の附属図書館情報システム「CULIS」の概要について、有岡係長はインターネットと図書館サービスのかかわりについて講演を行いました。

講演会には学内外から約40名が参加し、活発な質疑応答が交わされました。

附属図書館は4月から、学内LANを経由したCD-ROM Medlineサービスを開始しています。また業務用端末からインターネットの利用も可能になっています。



## 平成7年度 新入生オリエンテーション

本年も履修指導の一環として、附属図書館の「新入生オリエンテーション」を下記のように実施しました。

対象者 新入生161名  
(医学科101名、看護学科60名)  
日 時 平成7年4月12日(水)  
14:30~16:15  
場 所 臨床講義室3および 図書館  
内 容 図書館長の挨拶と図書館についての全体説明のあと、グループ毎に図書館へ移動し、入室・退室、資料の配置、貸出・返却等について実地に案内をした。

図書館の1階に置いてあるのは、洋雑誌が殆どですので新入生の皆さんは2階へ行かれることが多いでしょう。

2階の利用者端末の近くに放送大学の教科書が置いてあります。生涯学習の時代にレベルの高い勉学の機会を広く国民に提供することを目的として設置された放送大学のテキストは、さまざまな分野にわたっていて、読みやすく、分かりやすく、しかも質の高い内容を持っています。

人文科学、社会科学等、専門分野以外の事柄にも興味を持ちバランスの良い思考力を維持するには、柔軟に知識を摂取する意欲が必要ではないでしょうか。この教材が役に立つかもしれません。

自然科学の分野ではビデオ教材もあります。この「放送大学ビデオ教材」は、一般図書として貸出をしますのでご利用ください。

## 行事報告

## 学内LAN経由のCD-ROM/ Medline利用講習会

附属図書館ではCD-ROM館内LANシステムにより、CD-ROM Medlineを利用していただいておりますが平成7年4月24日から、学内LANを活用しての検索ができるようになりました。

サービス概要、利用概要、そしてデモと質問を内容とする利用講習会を下記の日程で開催しました。

第1回：平成7年4月24日（月）

10：30～11：00、15：30～16：00

附属図書館館長室

Macintoshユーザ対象

第2回：平成7年6月1日（木）

15：30～16：00

グループAV室

Windowsユーザ

特に第1回の4月24日は午前、午後とも館長室が満員となる盛況で、学内LANとCD-ROM Medlineに対する関心の高さを伺わせるものでした。

Medlineを図書館で利用する場合と学内LAN経由で利用する場合の大きな相違点は特殊キーの操作とダウンロードファイルの取り込みです。

わざわざ図書館へ出向かなくても検索ができるというのは大きなメリットですので、是非、操作に慣れ、有効に利用していただきたいと思っております。

なお、従来の電話回線経由による検索サービスも継続しております。

## 一般教養図書の充実について

第70回附属図書館委員会（平成7年2月16日）において、一般教養図書を充実することが決定されました。

本決定により

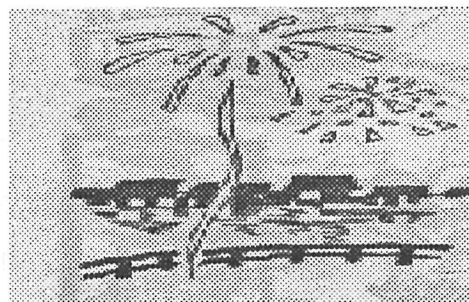
- (1)美術書「ルーブルとパリの美術」
  - (2)全集（「カント全集」等）
  - (3)辞書・事典及び便覧
  - (4)日本の文学賞受賞者作品
  - (5)医学出身者の文学作品
- を購入しています。

すでに2階書架に配架されていますので、御利用ください。

## 平成8年度図書館備付け外国雑誌の見直しについて

図書館備付け外国雑誌の見直しは5年に一度行っていますが、その見直し年が本年になります。

備付け希望アンケートに基づき附属図書館委員会で検討し、1996年の購入雑誌を決定しました。





## ◆ 附属図書館の活動 ◆

(平成6年7月～平成7年6月)

### 利用者向けオリエンテーション

医学文献の調べ方に関するガイダンス

平成6年9月14日及び28日  
出席学生数：82名 (78%)

新入生ガイダンス

平成7年4月12日  
出席学生数：160名 (100%)

学内LAN経由のCD-ROM Medline利用講習会

(第1回) 平成7年4月24日

参加者：約40名

(第2回) 平成7年6月1日

参加者：8名

### 附属図書館刊行物

さざなみ (No.36) (平成6年6月)

### 附属図書館統計

平成6年度 受入冊数	図 書	2,365冊	
	製本雑誌	2,193冊	
	合 計	4,558冊	
平成6年度 受入雑誌数	和 雑 誌	493種	
	洋 雑 誌	529種	
	合 計	1,022種	
平成6年度 館外貸出	学 生	4,987人	8,337冊
	教 職 員	3,576人	7,955冊
	合 計	8,563人	16,292冊
平成6年度 相互貸借 ( )現物貸 借数で内数	受 付	6,249件	(47件)
	依 頼	3,805件	(9件)
	合 計	10,054件	(56件)
平成6年度	文献検索利用件数	5,040件	
所 蔵 冊 数	図 書	56,381冊	
	製本雑誌	55,137冊	
	合 計	111,518冊	
入 館 者 数 (平成6年8月～ 平成7年3月)	有人開館	51,665人	
	無人開館	1,616人	

## 附属図書館委員会

第67回 (平成6年7月6日)

附属図書館の増築について

卒業生の附属図書館の利用について

第68回 (持ち回り)

附属図書館委員会規程の一部改正について

第69回 (平成6年10月27日)

平成6年度図書館備付け資料購入について  
看護学科の図書館備付け雑誌について

第70回 (平成7年2月16日)

附属図書館の無人開館について

平成8年度歳出概算要求について

図書館資料の購入について

第71回 (平成7年5月23日)

平成6年度附属図書館資料購入について

図書館備付け外国雑誌の見直しについて

学生に対する無人開館サービスについて

### 図書館関係会議

近畿地区医学図書館協議会第18回 (平成6年度) 実務者会議

平成7年2月7日 (大阪歯科大学)

近畿地区国立大学図書館協議会

平成7年4月24日 (京都大学附属図書館)

第66回日本医学図書館協会総会

平成7年5月18日～19日

(川崎 ホテル ザ・エルシイ)

平成7年度附属図書館事務部課長会議

平成7年5月26日 (東京医科歯科大学)

大学図書館に関するヒアリング

平成7年5月30日 (文部省)

第64回近畿地区国公立大学図書館協議会総会

平成7年6月9日 (神戸商科大学)

第20回国立医科大学図書館会議及び第2回国立医科大学図書館課長連絡会議

平成7年6月27日 (東京 本郷会館)

第42回国立大学図書館協議会総会

平成7年6月28日～29日 (東京 如水会館)

近畿地区医学図書館協議会例会

(第60回) 平成6年11月11日 (北野病院)

(第61回) 平成7年2月20日

(塩野義製薬 (株) 中央研究所)

(第62回) 平成7年4月28日 (滋賀医科大学)

図書館情報システム特別委員会ILLシステム専門委員会

(第1回) 平成6年8月4日 (大阪大学附属図書館)

(第2回) 平成6年8月13日 (大阪大学附属図書館)

(第3回) 平成6年11月20日 (大阪大学附属図書館)

(第4回)平成6年12月14日(大阪大学附属図書館)  
 (第5回)平成7年2月3日(大阪大学附属図書館)  
 図書館情報システム特別委員会目録業務システム専門委員会  
 (第1回)平成6年7月19日(京都大学附属図書館)  
 (第2回)平成6年9月20日(京都大学附属図書館)  
 (第3回)平成6年11月30日(京都大学附属図書館)  
 (第4回)平成7年3月2日(京都大学附属図書館)

## 地域ネットワーク関係

近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡会議ネットワークシステム小委員会

平成6年7月29日(京都大学附属図書館)

近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡会議及び同ネットワーク小委員会

平成7年3月23日(京都大学附属図書館)

## 研修関係 [参加者]

平成6年度公立大学協会図書館協議会研修会

平成6年6月4日～5日

(大阪府立大学総合情報センター) [菅]

平成6年度図書館等職員著作権実務講習会

平成6年8月24日～26日

(京都大学薬学部講堂) [坂本]

第1回医学図書館員基礎研修会

平成6年8月24～26日

(大阪大学附属図書館生命科学分館) [小川]

大阪医科大学

平成6年9月1日 [森下]

富山大学

平成6年9月19日 [京藤]

平成6年度国立大学事務電算化講習会

平成6年9月20日～22日

(石川厚生年金会館) [京藤]

人事院主催テーマ別研修

平成6年10月13日

(大阪大学微生物病研究所) [森下]

学術雑誌目次速報データベース入力説明会

平成6年10月5日(大阪大学基礎工学部) [成宮]

平成6年度目録システム地域講習会

平成6年10月3日～7日

(京都大学附属図書館) [坂本]

平成6年度学術情報センターシンポジウム

平成6年10月13日(大阪 オーバルホール) [菅]

平成7年度国立大学図書館協議会シンポジウム

平成7年11月10日～11日

(岡山大学大学院自然科学研究科) [谷垣]

平成6年度第2回NACSIS-IR講習会

(基礎コース2.)平成6年11月1日～2日

(学術情報センター) [菅]

平成6年度ILLシステム地域講習会

平成6年12月5日～7日

(京都大学附属図書館) [田中]

平成6年度(第6回)滋賀医科大学職員研修

平成6年12月14日～16日

(本学、希望が丘文化公園 青年の城) [成宮]

平成6年度近畿地区国公立大学図書館協議会主題別研究集会

平成6年12月9日

(大阪大学附属図書館生命科学分館) [八木]

NACSIS-IRモニター報告会

平成7年1月19日～20日(学術情報センター) [菅]

長崎大学附属図書館

平成7年1月31日～2月2日 [八木]

第18回(平成6年度)近畿地区医学図書館協議会実務者会議

平成7年2月7日(大阪歯科大学) [菅]

学術情報センター

平成7年3月16日～17日 [谷垣、坂本]

福井医科大学

平成7年3月22日～23日 [森下、成宮]

山梨医科大学

平成7年3月22日～23日 [小川、田中]

大阪教育大学附属図書館

平成7年3月24日 [菅]

千葉大学附属図書館

平成7年3月27日～28日 [京藤、菅]

## 兵庫県南部地震災害復旧支援

平成7年1月26日

(神戸商船大学附属図書館) [京藤]

平成7年2月2日～5日(神戸市中央区) [谷垣]

平成7年2月18日～21日(神戸市中央区) [森下]

平成7年2月23日

(神戸商船大学附属図書館) [田中]

平成7年2月24日

(神戸商船大学附属図書館) [小川]

平成7年3月31日(神戸市中央区) [小川]

## 附属図書館設備

マイクロフィッシュリーダーの設置

(平成6年8月)

CD-ROM館内LANシステムにターミナルサーバーを追加

(平成7年3月)

モニターテレビカメラの設置

(平成7年3月)

## 本学関係者寄贈図書

**小澤和恵 (附属病院長)**

Liver related donor liver transplantation  
Karger 1994

**戸田昇 (薬理学講座・教授)**

「NO」最新医学からのアプローチ12  
メジカルビュー社 1995

**高橋三郎 (精神医学講座・教授)**

DMS-IV精神疾患の分類と診断の手引  
医学書院 1995  
機能性精神病のための診断基準集  
西村書店 1994

御惠贈、ありがとうございます。図書館の蔵書として広く利用に供させていただきます。

## 人事異動

( ) 内は旧官職名

### 昇任・採用・配置換等

(平成7年4月1日付け)

#### 定員内

辻井喜美代 運用係員 (京都大学総合  
人間学部)  
田中 雅浩 医事課専門職員付 (運用係員)  
坂本 恭子 運用係員 (整理係員)

#### 非常勤職員

上根 由美 整理係員

### 出向・辞職・休職等

(平成7年4月1日付け)

菅 修一 大阪教育大学 (運用係員)  
附属図書館  
情報管理係長

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.37/38

1995年7月発行

発行人 京藤 貫

編集委員 森下誠一・小川晋平・坂本恭子

発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-21 大津市瀬田月輪町

TEL.0775-48-2078 FAX.0775-43-9236